



外国文献紹介

充実性非機能性巨大下垂体腺腫の再発予測について —MRI 拡散強調像の付加的有用性—

Ko CC et al : Prediction of recurrence in solid nonfunctioning pituitary macroadenomas : additional benefits of diffusion-weighted MR imaging. J Neurosurg 132 : 351-359, 2019

筆者らは、術前および術後に MRI 画像の撮影が行われた良性で充実性の非機能性巨大下垂体腺腫 (NFMAs) の患者 30 例について、後ろ向き調査を行い、画像所見や拡散強調像から求めた ADC 値などのパラメーターと残存腫瘍の進行や再発との関連性について検討した。その結果、30 例中 19 例 (63.3%) に残存腫瘍の進行や再発がみられた。海綿静脈洞浸潤などの画像所見や残存腫瘍の大きさ、ADC 値や ADC 比と残存腫瘍の進行や再発との関連性が示唆された。特にコックス比例ハザード分析で ADC 値が低値を示す場合には、残存腫瘍の進行や再発のリスクが高いことがわかった。そして、良性で充実性の NFMAs であり、ADC 値や ADC 比が低値を示す場合には、短期間に繰り返し MRI の撮影を行って積極的に治療する必要があると述べている。

瀬戸一彦